

# 専修学校リカレント教育 総合推進プロジェクト

「外国人介護人材を対象とする  
『介護実務日本語力』学び直し  
講座の実施モデル構築事業」

## 実証講座実施報告

## ➤ 目的

- 前年度に実施したトライアル講座で得た課題を改善する
- スクーリングを含む「グループA」と、eラーニングのみの「グループB」に分け、進捗率や正解率、アンケート結果等から効果を分析・比較する
- 検証結果を最終的な実施モデル策定の材料とする

➤ 受講者

区分		グループA	グループB	計
介護福祉士 養成施設卒業生		3名	4名	7名
在校生	2年生	—	19名	19名
	1年生	18名	—	18名
計		21名	23名	44名

## ➤ 実施日程

- 期間：2019年10月14日（月）～2019年12月6日（金）  
計54日間（8週間）
- 1日あたり1時間程度の学習を想定  
1週あたり5日×8週間＝40時間（1か月あたり20時間）

日程	実施事項
適宜	オリエンテーション 受講前効果測定試験
10月14日(月)	受講開始
随時	進捗状況確認・フォロー
11月8日(金)	(Aグループのみ)スクーリング①
	(Aグループのみ)スクーリング②
12月6日(金)	受講後効果測定試験 受講終了

## ➤ スクリーニング実施内容

- 90分×2コマ×2日間=360分（6時間）
- 1コマごとにテーマを選定
- 1コマの構成

項目	内容	時間
導入	学習テーマ・目標・狙い等の説明	5分
講義動画	要所で一時停止し、解説・フォローを加えながら動画を視聴	30分
グループワーク	グループに分かれ、動画内の事例について、課題を設定し話し合い	15分
発表	グループワークの結果を発表	15分
講評	発表に対するフォロー・講評	10分
確認テスト	学習内容の確認	10分
確認テスト解説	答え合わせ・解説	5分
	計	90分

## ➤ 検証項目（1）

### ① 時間数と期間

「1日1時間，週5日，1か月20日間，総学習時間40時間」という設定は適切だったか

検証材料：問題解答率（＝期間内に解答した問題数／総問題数）

### ② 難易度

受講者に対して問題の難易度は適切だったか

検証材料：問題ごとの正答率（＝正解数／解答数）

### ③ 日本語力の向上度

受講前と受講後で日本語力の向上はみられたか

検証材料：受講前と受講後に実施する効果測定試験の結果

## ➤ 検証項目 (2)

### ④ 勤務への影響

実務に活かされたか 勤務に悪影響はなかったか  
検証材料：勤務先事業所へのアンケート調査結果

### ⑤ 主観的評価

受講者の所感等  
検証材料：受講者へのアンケート調査結果

### ⑥ スクーリングの効果

スクーリングを取り入れたことに効果はみられたか  
グループごとの効果測定試験結果，アンケート等から  
総合的に評価

### ⑦ その他改善点，修正点について

## ➤ 結果の検証

(受講者毎の詳細な受講結果データについては成果報告書参照)

### ①時間数と期間

#### ◆ 解答率グループ平均 (総合)

グループ		解答率
<b>A</b>	卒業生	<b>91.3%</b>
	在校生	75.1%
	全体	83.2%
<b>B</b>	卒業生	<b>80.6%</b>
	在校生	68.3%
	全体	74.5%

## ➤ 結果の検証

### ①時間数と期間

#### ◆ 解答率：全体の傾向

在校生 < 卒業生  
Bグループ < Aグループ

(要因) スクーリング時の呼びかけ  
連絡頻度の差

## ➤ 結果の検証

### ②難易度

#### ◆ 正答率グループ平均（総合）

グループ		正答率
<b>A</b>	卒業生	<b>69.6%</b>
	在校生	58.8%
	全体	60.3%
<b>B</b>	卒業生	<b>60.6%</b>
	在校生	55.5%
	全体	56.4%

## ➤ 結果の検証

### ②難易度と期間

- ◆ 正答率：全体の傾向は解答率と同様

在校生 < 卒業生  
Bグループ < Aグループ

(要因) スクーリング時の質問対応

## ➤ 結果の検証

### ③日本語力の向上度

#### ◆ 効果測定試験得点（グループ平均）

グループ		①受講前	②受講後	②－①
<b>A</b>	卒業生	<b>14.0</b>	<b>15.7</b>	<b>1.7</b>
	在校生	11.9	13.3	1.4
	全体	12.2	13.7	1.4
<b>B</b>	卒業生	<b>11.0</b>	<b>12.3</b>	<b>1.3</b>
	在校生	13.1	13.7	0.6
	全体	12.7	13.5	0.7

## ➤ 結果の検証

### ④勤務への影響

#### ◆ アンケート結果（受講者）

- 特に悪影響はなかった
- 利用者とのコミュニケーションに役立った
- 習ったことを実際に使った

## ➤ 結果の検証

### ④勤務への影響

#### ◆ アンケート結果（勤務先）

- 接遇やマナーの意識が向上した
- 今後活かせる
- 業務へのモチベーションの向上がみられた
- 記録について文章能力の向上が見られた
- 本人の負担が大きかった

## ➤ 結果の検証

### ⑤主観的評価

#### ◆ 在校生

- 実際に仕事で使えた
- 漢字が難しい・ルビが欲しい

#### ◆ 卒業生

- この様なプログラムがあると勉強になって良い
- (テキストを読むタイプの科目の) 文章が長く、読むのに時間がかかった

## ➤ 結果の検証

### ⑤主観的評価

#### ◆ 勤務先

- 事業所内で学習の機会を持つことはなかなか難しく、今回参加できてよかった。
- 受講者本人も意欲的だった。
- 負担はあまり感じられなかった。

## ➤ 結果の検証

### ⑥スクーリングの効果

- ◆ 解答率や正解率，効果測定試験の結果は，概ねスクーリングなし < スクーリングあり  
→ 一定の効果があったのではないか。

## ➤ 結果の検証

### ⑥スクーリングの効果

#### ◆アンケート結果

- 1人で勉強するよりわかりやすかった
- コミュニケーションだけでなく  
語彙の勉強にもなった
- わからないところを聞くことができた
- いろいろなことが理解できて面白い
- 時間が少し長く感じた

## ➤ 結果の検証

### ⑦その他改善点，修正点等について

- ◆ テキストを読むタイプの学習ユニット（「日本の介護事情」）については，ルビの必要性について要検討

## ➤ 結果の検証

### ◆ まとめ（1）

- スクーリングのあるグループの方がより効果が見られた
- スクーリングがモチベーションの維持にもつながった
- 時間設定，難易度等は，概ね妥当であった
- 就労者の学習の機会としてeラーニングを用いることの有用性を確認できた

## ◆ まとめ（2）

形態	長所	短所
eラーニング	学習時間の柔軟性	モチベーションの維持に課題
スクーリング	学習効果の向上 モチベーションの維持に対する効果	時間的・場所的拘束

- eラーニングとスクーリングのそれぞれの長所を生かし短所を補う形態が望ましい
  - 主体はeラーニング
  - + 月1回程度の頻回でないスクーリング

# 実施モデル

学習領域	学習ユニット	学習時間	学習形態
外国人介護福祉士 のための 介護実務日本語力	①介護実務語彙力	12時間	eラーニング
	②介護実務日本語文章	10時間	
	③介護実務コミュニケーションA	12時間	
	④介護実務コミュニケーションB	4時間	
		⑤日本式接遇スキル	6時間
外国人介護福祉士 のための 日本生活文化と介護事情	⑥日本の文化・生活・習慣	8時間	eラーニング
	⑦日本の介護事情・高齢者	8時間	
計		60時間	

学習期間:3ヶ月(1ヶ月あたり20時間相当の学習を想定)

スクーリング:1ヶ月あたり1回2時間ずつ,計3回(6時間)実施